

京都大学理学研究科・理学部は、1897年の京都帝国大学の設立の翌年に理工科大学の中に数学科、物理学科、化学科が設立されたのを起源としています。1919年には理学部が設立され、宇宙物理学科、地球物理学科、動物学科、植物学科、地質学鉱物学科が追加されました。従って、理学部は100年以上の歴史を持っていることになります。第二次世界大戦後の1953年に大学院が新設され、課程博士の教育が始まりました。1994年から1995年にかけて、理学部の学科を理学科1学科にし、大学院を数学・数理解析、物理学・宇宙物理学、地球惑星科学、化学、生物科学の5つの専攻とする体制の変更を行い、現在に至っています。

理学は、自然現象に関する真理の探究を行う学問であり、自然や事物の本質について考えを巡らし、その真理を合理的に明らかにすることを目指しています。世界の有様を大きく変えるような科学上の発見の多くは、自然界の真理に対する純粋な好奇心に基づく研究から生まれてきました。京都大学理学研究科・理学部では、研究者一人一人の自由な発想に基づく研究を尊重し、時流にとられない独自性の高い研究を進めてきました。所属するファカルティスタッフは皆、事物の本性或本質を見つけることに無常の喜びと幸せを感じています。このような、好奇心旺盛で个性的かつ多才多様な教員陣こそが、我々京都大学理学研究科・理学部の最も誇りと

するものです。100年の歴史の中でノーベル賞やフィールズ賞などの大きな賞を授与される研究者を多数輩出してきたのも、京都大学理学研究科・理学部のこのような気風があったからだと考えています。また、京都大学理学研究科・理学部は我が国の理学分野の教育にも大きな貢献を果たしてきました。卒業生はアカデミックに留まらず、企業をはじめとした日本の多彩な分野で活躍しています。

理学研究科・理学部での研究・教育は、社会に存在する様々な課題の解決にも大きな役割を果たすことができます。現在の日本は、少子高齢化、地域格差、経済の低迷、気候変動、潜在的な自然災害リスクなど様々な問題を抱えています。同様に世界にも多くの課題が存在しています。理学はこのような問題の解決に直接寄与するような学問ではありませんが、問題解決に必要な高度な研究能力を持つ人材の育成に有効であることは論を俟たない点でしょう。理学を学んだ学生は全く新しい発想で自然を研究する「すべ」を身につけますので、問題解決のために必要な深い洞察や大胆な発想の転換を行うことができます。さらに、理学は研究の過程において、問題解決の基礎となる情報分析の手法や概念の創出、新規な技術の提供、全く新しい考え方の提示を行うことができます。実際、社会を大きく変えるような発見や発明が直接関係ない分野から現れることは、よく知られた事実です。このように、理学研究科・理学部は社会に対しても広く貢献することが可能な組織であり、今後もその姿勢を崩さずに研究・教育を進めていきたいと考えております。その一環として、理学研究科内に附属サイエンス連携探索センター（通称：SACRA）を設立し、「数理を基盤として新分野の自発的創出を促す理学教育プログラム」（通称：MACS教育プログラム）に代表される学際融合分野の教育を進めてまいりました。2024年度からは新しく3つの融合研究ユニット、①データ理学仮説創出ユニット、②未踏量子計測ユニット、③地球と生命の共進化研究ユニット、をSACRA内に設立し、次代を担う若手研究者を配置して、研究を進めてまいります。

どうぞ我々のアクティビティを知っていただき、今後のご協力やご支援をよろしくお願い申し上げます。



令和6年5月  
理学研究科長・理学部長 田中耕一郎

